✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧✧

✧　東北地方太平洋沖地震により大きな被害

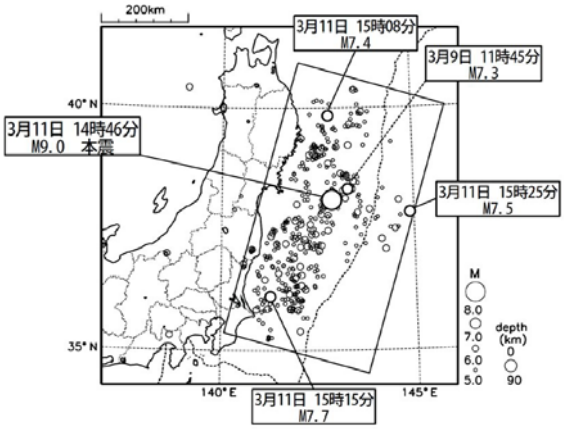
平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分頃三陸沖の深さ 24km を震源とする Mw9.0（確定値)の巨大地震が発生し、宮城県栗原市で震度 7、宮城県、福島県、茨城県、栃木県で震度 6 強を記録し、北海道太平洋沿岸西部から伊豆諸島までの広い範囲に『大津波警報』など、ほぼ日本全国に津波関係の警報・注意報が出されました。断層の大きさは長さ約 450km、幅約 200km に達し、最大で 20～30m 程度のすべり量と推定しています。

気象庁はこの地震に伴う大津波警報を 14 時 49 分に発表し、13 日 17 時 58 分にすべて解除しました。津波は全国各地で観測され、特に福島県相馬市では最大 7.3m 以上を、また宮古市では後日回収した観測記録から 8.5m を超える津波を観測しています。岩手県、宮城県、福島県などを襲った津波は、特に沿岸地域の集落に壊滅的な被害を及ぼしたところもあり、死者は 1 万人を超え、行方不明者と合わせて 2 万 7 千人を超えるとされています(内閣府 3 月 25 日)。

太平洋を囲む諸外国でも津波は観測され、米国西岸のクレセントシティでは 2m を超える津波を観測しています。

気象庁はこの地震を「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」と命名しました。

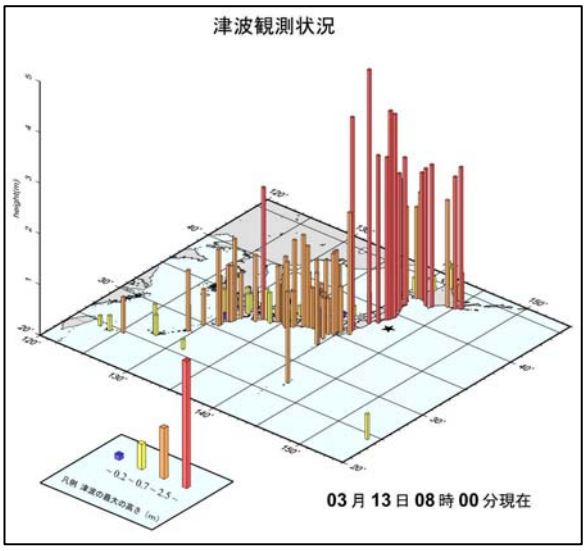
この地震や津波により、気象庁の観測網も大きな被害を受けています。観測網の応急復旧にあたり、気象庁は気象業務法第 6 条第 4 項を初めて適用し、検定を受けている NTT ドコモ㈱による気温や雨量など一部の観測成果を活用しています。



上：余震の状況(平成 23 年 3 月 25 日 12 時まで)
　　深さ 90km 以浅、M5.0 以上

下：津波の高さ(平成 23 年 3 月 13 日 8 時現在)

(いずれも気象庁ホームページから)



（(財）気象業務支援センター）